

	実践内容	アンケート内容	4段階評価			平均	昨年	○成果 ●課題 □改善方策	学校運営協議会委員の評価・所見	
			生徒	保護者	職員					
学習に関して	1 「わかる授業」実現のための指導方法工夫改善 (ア)	先生の授業は分かりやすいか。	生徒	3.2	3.2	3.2	<ul style="list-style-type: none"> 一人一研究授業では特別支援教育の視点や手立てを活用した授業を実施し、指導力向上と、指導法工夫改善に努めた。 2年生では論理コミュニケーション遠隔授業を体験し、論理的な思考方法を学ぶことができた。 学年が上がるにつれ、学力の二極化が進んでいる。 主題研究で授業における「視覚的な資料提示」「1時間の流れ(メニュー)の提示」「単一指示」を全職員で行い、授業改善に取り組んでいる。 	<p>学習に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> わかりやすい授業に取り組んでいる先生方の努力がうかがえる。 教材や授業案の工夫等、教師が授業力の資質向上に貢献できている。 昨年の評価・所見が今年度活かされ、生徒への良い導きが見受けられる。 どの項目に関しても、保護者の評価が、生徒・職員に比べて低いのは、保護者が自分の子どもの成績に満足していないことを表しているのではないかと、保護者が自らの目標を定めて学習に取り組む大切さを生徒と保護者間で話し合える環境づくりが必要。 キャリア教育は、修学旅行など格好の機会と思う。バス会社・旅行会社・ホテル・見学場所、色々な仕事をしている人に出会うチャンスを有効に活用して欲しい。 様々な職業や進路について、生徒が知る機会を増やして欲しい。 課題や自主的な家庭学習を提出しない生徒の背景にあるものを深いところで把握し可能な範囲で働きかけられるのも大切と思う。忙しい担任以外で、そういう動きのできるスタッフがおられると良いと思う。 延岡市の特徴を活かした「はげまし隊」による学習支援を有効に活用し、学力の向上を図る。 昨日まで知らなかったことを知るのが授業の楽しさの一つであることを生徒に浸透させること。その積み重ねが学習意欲につながる。 今ある半分以上の職業は今の生徒が就職する時代には、職種がなくなることを前提に将来の目標を意識して、学習にう繋げることが必要。 学習していることが、社会でどのような分野で生きてくるのか、理解すれば、自ずと学習意欲が湧いてくるのでは。 		
		先生の授業は分かりやすいと思うか。	保護者	3.0						
		分かりやすい授業を工夫しているか。	職員	3.4						
	2 目的意識を持った意欲的な学習の取組 (ア)	目的を持って、意欲的に日々の学習に取り組んでいるか。	生徒	3.0	3.0	3.0				
		意欲的に学習するような指導をしているか。	保護者	2.9						
		職員	3.0							
	3 自立した社会人・職業人の育成を目指すキャリア教育の推進 (ア)	自分事として将来の生き方を考え、将来の目標達成のために取り組んでいるか。	生徒	3.1	2.9	3.0				
		自分の将来を考えるような指導をしているか。	保護者	2.7						
		職員	2.9							
生活に関して	4 保護者の協力を得ながらの時間を守る態度の育成	時間を守って学校生活を送っているか。	生徒	3.4	3.3	3.4	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの生徒は概ね時間を守っている。 遅刻する生徒が固定化している。 遅刻気味の生徒に関して、時間を守ることの意義を理解させ、生徒指導支援員の協力をあおぐとともに、家庭と協力しながら生活習慣の確立を目指していく。 	<p>生活に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールを守ることが社会生活で大切なことであるという意識は育っており、教師の努力が理解できる。 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が大切。 今後の生徒会主体の活動に大いに期待する。 学校任せにせず、保護者が見本となる考え方を普及して欲しい。 あいさつ、無言清掃とても良くできていると感心する。欲を言えば、無言清掃中でも外部から人が来た場合は、あいさつはした方が感じが良いと思う。(たいていの外部の方は「無言清掃」とは知らないの。) 遅刻、服装の乱れなどの目立つ子どもは固定していると思われるが、必要な指導というよりも、支援だと思つので、先生たちと協力して、そういう子ども達を支援していくネットワークが地域にできると良いと思う。 時間を守ることが社会生活でいかに必要であるか。信用される人としての第一歩です。 校則等、生徒の意見を取り入れることは大切ですが、その分責任と守る義務が生じることをしっかりと自覚させることが大切。 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣をしっかり身に付けることは、学力向上にもつながります。 		
		時間を守るよう指導しているか。	保護者	3.4						
		職員	3.1							
	5 保護者の協力を得ながらの基本的な生活習慣や態度の育成	学校の約束(身なり・きまり)をしっかり守っているか。	生徒	3.5	3.4	3.6				
		学校の約束を守るよう指導しているか。	保護者	3.5						
		職員	3.3							
	6 生徒の主体的な活動を充実させ、積極的に取り組む態度の育成 (イ)	清掃・係活動・生徒会活動にきちんと取り組んでいるか。	生徒	3.7	3.5	3.6				
		清掃・係活動・生徒会活動の指導をきちんと行っているか。	保護者	3.4						
		職員	3.3							
心と身体に関して	7 思いやりの心と、人権感覚を身につけた実践力ある生徒の育成 (ウ)	いじめ・嫌がらせ等、絶対許さない気持ちをもっているか。	生徒	3.7	3.5	3.6	<ul style="list-style-type: none"> 人権講話(全年対象)では、人権感覚を育成するためにLGBTQへの理解といじめ・差別をテーマに年に二度行つた。 毎月、学校生活アンケート、教育相談アンケート等に記入されていたいじめや嫌がらせの訴えをもとに、指導・対応する場面があった。 アンケートをもとに、いじめ不登校対策委員会、生徒指導部会を実施し、組織的な対応を行っていく。また、個々の教職員のアンテナを高く、いじめ・不登校の事前防止を心がけていく。 	<p>心と身体について</p> <ul style="list-style-type: none"> ルールを守ることが社会生活で大切なことであるという意識は育っており、教師の努力が理解できる。 「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣が大切。 今後の生徒会主体の活動に大いに期待する。 学校任せにせず、保護者が見本となる考え方を普及して欲しい。 あいさつ、無言清掃とても良くできていると感心する。欲を言えば、無言清掃中でも外部から人が来た場合は、あいさつはした方が感じが良いと思う。(たいていの外部の方は「無言清掃」とは知らないの。) 遅刻、服装の乱れなどの目立つ子どもは固定していると思われるが、必要な指導というよりも、支援だと思つので、先生たちと協力して、そういう子ども達を支援していくネットワークが地域にできると良いと思う。 時間を守ることが社会生活でいかに必要であるか。信用される人としての第一歩です。 校則等、生徒の意見を取り入れることは大切ですが、その分責任と守る義務が生じることをしっかりと自覚させることが大切。 「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣をしっかり身に付けることは、学力向上にもつながります。 		
		させない指導とアンテナを高くしているか。	保護者	3.5						
		職員	3.2							
	8 時と場に応じた態度であいさつできる生徒の育成	あいさつがきちんとできているか。	生徒	3.6	3.3	3.4				
		あいさつがきちんとできるよう指導しているか。	保護者	3.3						
		職員	3.1							
	9 健康の増進と体力の向上に意欲的に取り組む生徒の育成 (ウ)	むし歯の治療や体調管理に気をつけ、欠席等少なくなるよう努力しているか。	生徒	3.6	3.3	3.4				
		体調管理に気をつけ、欠席等が少なくなる指導をしているか。	保護者	3.5						
		職員	2.8							
関家庭に	10 保護者と協力しながら、情報機器の使用について考え、正しい実践力の育成 (ウ)	家庭で情報機器(PC,スマホ,TV等)について約束事を決め守っているか。	生徒	2.9	2.6	2.8	<ul style="list-style-type: none"> 情報教育については、日常的な指導や専門家を活用した講演などで啓発を行った。 SNS上での生徒間のトラブルを指導することが多かった。 専門家を招いての講話等、外部講師を活用するなどの機会を設ける。 	<p>家庭に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報機器に関しては、親世代もつきあいがよく分かっていない。講演など子どもと一緒に聴く機会があれば良いかもしれない。また、情報機器の使用に関して、使用時間を制限するなどの約束を決める。保護者の協力が必要。 親自身が子育てにストレスを抱えているように感じる。家庭教育の責任を果たす考え方も必要だ。 		
		情報機器使用の指導を行っているか。	保護者	2.4						
		職員	2.6							
関地域に	11 地域と協力しながら、地域貢献に意欲的に取り組む生徒の育成 (エ)	地域をよくするために何をすべきか考えることがあるか。	生徒	2.7	2.6	2.6			<ul style="list-style-type: none"> 「総合的な学習の時間」で防災を学習する中で、地域の方の悩みを聞いたり、共にフィールドワークで地域の危険を調査したりなど、地域と連携した活動を行うことができた。地域の防災意識にもつながった。 感染症の増加や当日雨で延期をすることがあり、連絡調整で難しい面があった。 参加者の連絡網の作成やホームページの活用など、スムーズに伝達できるようなシステムをつくる。 	<p>地域に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒会を中心とした活動ができるように導かれたことが素晴らしい成果でした。 教師・生徒・地域住民・行政との連携による津波避難所ツアーや津波避難訓練、防災パンフレットの作成ができた。ここに至るプロセスで顔の見える関係づくりができたこと大変良かった。 子ども達を通して学校や地域が繋がっていくことはとても価値があることである 地区内の行事に保護者と一緒に参加できるよう行事案内を出してもらおう。
		地域貢献活動に積極的に取り組ませているか。	保護者	2.3						
		職員	2.7							